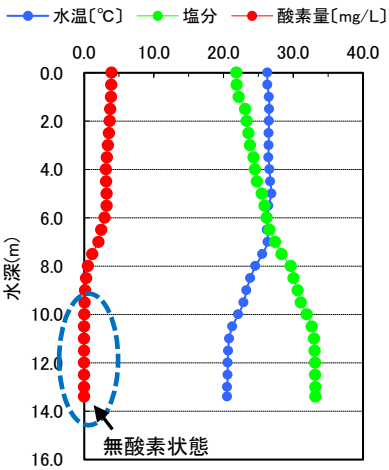
平成26年度　東京都内湾水生生物調査　8月底生生物調査　速報

東京都内湾水生生物調査

地点名	St.5	調査年月日	平成26年8月27日　9:55　～　10:30

＜調査地点＞



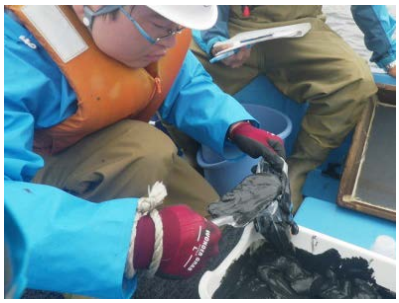
＜底質状況、底生生物出現状況＞

調査地点は、船の科学館の正面。
調査時、赤潮は確認されなかった。

調査地点は航路上にあり、水深は14m程度であった。
水深10m以深は無酸素状態であった。

14m下の海底から、底泥が詰まった採泥器を手で引き上げるのはかなりの重労働。

底質の性状は軟らかい泥であった。
海底面は無酸素状態であったため、泥の色は真っ黒であった。



臭気は、硫化物臭（卵の腐った臭い）が強烈で、調査員もビックリ！
白い容器もすぐに真っ黒になった。

底泥をフルイがけすると、貝殻がわずかに残る程度であった。
生きている底生生物はいないようである。

貝殻は、半透明でもろいものばかり。

東京湾では代表的な汚濁指標種。
酸素が少ない環境でも生息できるが、無酸素状態が続くと生きていけない。

泥分率の高い汚濁が進んだ水域に多い二枚貝。シズクガイと同様、無酸素状態が続くと生きていけない。

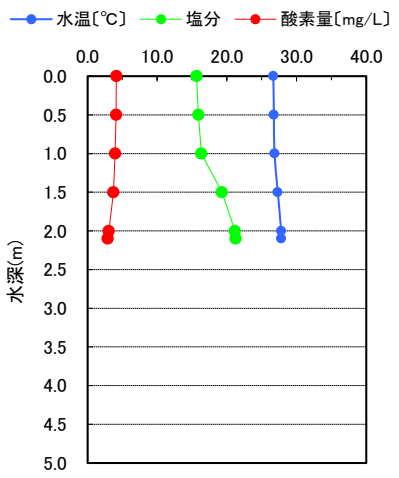
内湾から河口の潮間帯に生息する付着性の二枚貝で、外来種である。
付近の航路ブイに付着していたものが落下したものと推定される。

平成26年度　東京都内湾水生生物調査　8月底生生物調査　速報

東京都内湾水生生物調査

地点名	森ヶ崎の鼻	調査年月日	平成26年8月27日　10:48　～　11:44

＜調査地点＞

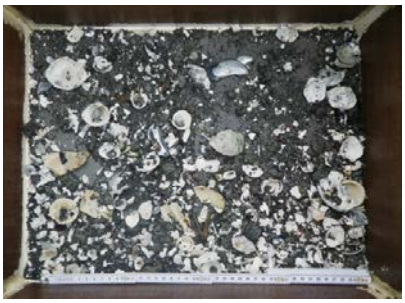


＜底質状況、底生生物出現状況＞

羽田空港の北側に残された天然の干潟。すぐ横をモノレールが走る。干潟に歩いて入ることはできない。

干潮時には広い干潟が出現する。
干潮時は、モノレールの車窓から干潟全体が見渡せる（昭和島駅～整備場駅の間）。

採取地点の底質は細砂であり、柔らかい泥はほとんど含まれていない。



フルイに残った試料。
貝殻片が多く混じっていた。
アサリとシオフキガイの貝殻が目立

細長い紐（ひも）の様な生物でとてもちぎれやすい。
ミミズのような縞模様やゴカイ類の様な毛も持たない。
肉食性で生きた動物を捕らえて食べる。

アサリの稚貝が採取されたが、大型の個体は確認できなかった。

干潟上ではたくさんの貝が自分で糸を出して絡まり合いマット状になる。
当地ではまだマット状の状態は確認されていない

＜調査地点周辺の底生生物生息状況＞

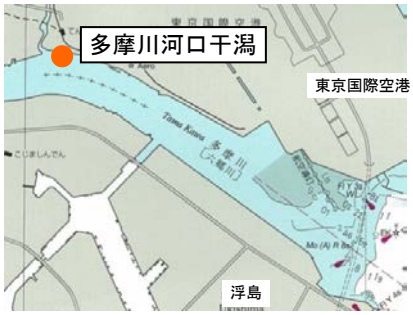
調査点の周辺の干潟上では、ひもむしの仲間や、ヤマトシジミ、ホンビノスガイなどの二枚貝が多数確認された。
ヤマトシジミは、春季調査時に比べ個体数が減っていた。

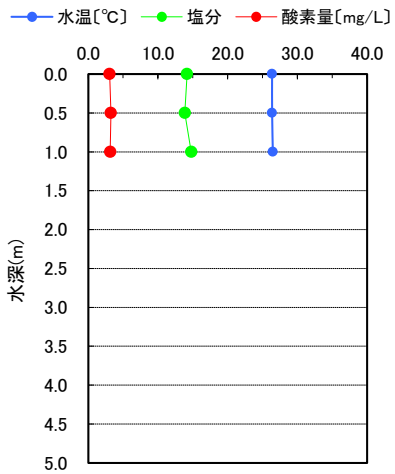
平成26年度　東京都内湾水生生物調査　8月底生生物調査　速報

東京都内湾水生生物調査

地点名	多摩川河口干潟	調査年月日	平成26年8月27日　13:10　～　14:00

＜調査地点＞



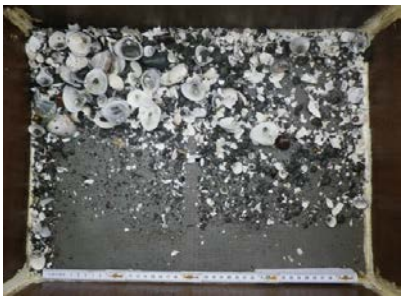


＜底質状況、底生生物出現状況＞

多摩川左岸側（北側）の海老取川河口付近の干潟を調査した。

採泥器を使って干潟の泥を採取。
船上からの採泥に比べ、作業は比較的楽である。

底質はシルト（軟らかい泥）が混じった細砂であった。
臭いはなかった。



フルイに残った試料。
貝殻片が多く混じっていた。
シオフキガイの貝殻が目立つ。

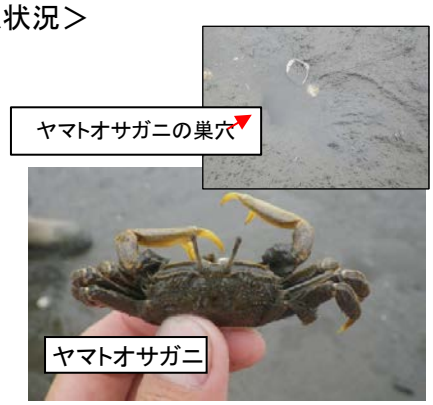
森ヶ崎の干潟と同様にひもむしの仲間が確認された。

様々な大きさのヤマトシジミが採取された。

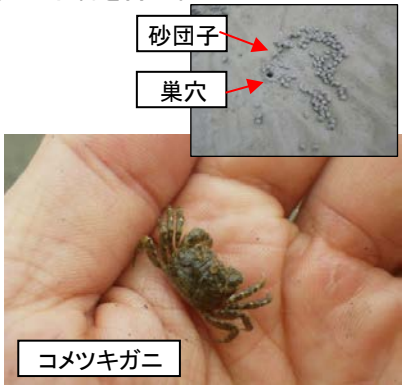
殻は非常に薄く壊れやすい。
淡水の影響の強い内湾奥の干潟の泥底に深く潜って生活する。
長い水管を持つ。

＜調査地点周辺の底生生物生息状況＞

釣り餌として利用される。
干潟に飛来するシギ・チドリ類の餌として重要である。



柔らかい水分の多い泥干潟に斜めの穴を掘って巣穴を作る。巣穴の入り口には放射状の浅い溝ができる。



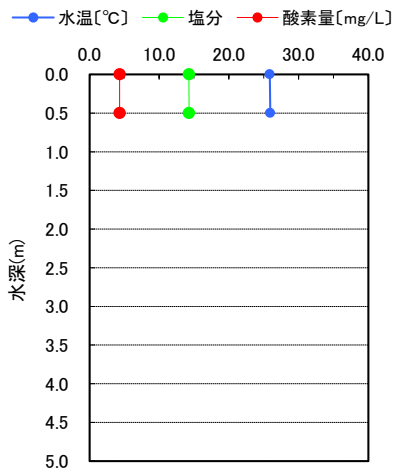
岸寄りの砂地に巣穴を掘って生活している。餌をとった残りの砂を小さな砂団子に丸めて巣穴の

平成26年度　東京都内湾水生生物調査　8月底生生物調査　速報

東京都内湾水生生物調査

地点名	St.31(多摩川河口)	調査年月日	平成26年8月27日　12:00　～　12:50

＜調査地点＞

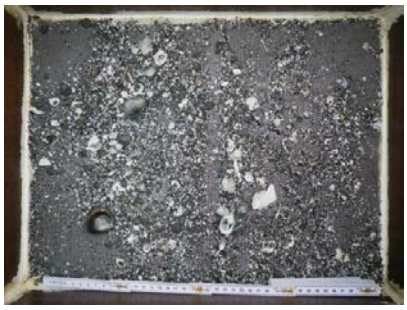


＜底質状況、底生生物出現状況＞

多摩川河口から1.5km付近の浅場であり、干潮時には川の中に立ち込むことが可能（調査時の水深は1m程度）。

陸側は工場群であるため、歩いて水辺に近寄ることはできない。

底質は細砂の混じった泥で、臭いはない。



フルイに残った試料。
二枚貝類や多毛類が確認された。

食用貝の代表種。
大型の個体の他、稚貝も確認された。

砂質底の潮間帯～水深20mに生息する。
砂はきが悪いので、食用としてあまり利用されない。

内湾の干潟から水深20mの砂泥底にやや深く潜って生息する。
ホンビノスガイに似ている。
食用になるが、肉は少なく固い。

砂質の干潟に多く、30cm以上深く潜っている。　大型のものは、食用とされ、潮干狩りでは掘り出すのが大変なため、巣穴に塩を入れて飛び出してきたところを捕まえる。

殻高1.5cmほどの巻貝である。
殻の表面には粗い粒状突起が並ぶ。
肉食性で魚や貝の死骸に集まり、『海の掃除屋』といわれる。

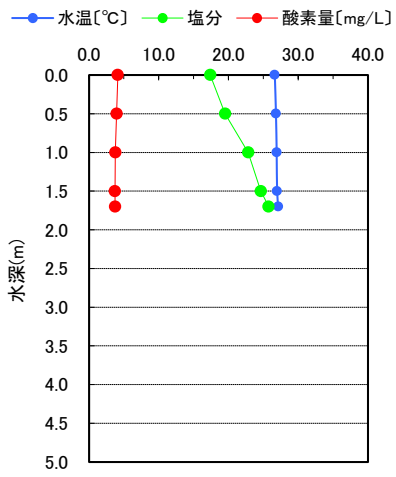
ミミズによく似た多毛類で、とても細い体をしている。

平成26年度　東京都内湾水生生物調査　8月底生生物調査　速報

東京都内湾水生生物調査

地点名	三枚洲（荒川河口）	調査年月日	平成26年8月27日　8:40　～　9:25

＜調査地点＞



＜底質状況、底生生物出現状況＞

荒川と旧江戸川の河口に残された天然の浅場。調査時の水深は2.7mあり、大潮の干潮時でも干出しない。

調査地点のすぐ横は、東京ディズニーリゾートである。

フルイに残った試料。小石や貝殻などは少なく、砂のほとんどはフルイの目合(1mm)を抜けてしまう。

底質は細砂であり、柔らかい泥は全く無い。

三枚洲においては、フルイに残った生物では小型のアサリや多毛類が確認された。
海底には、泥がほとんど無く、細砂が主体であるため、シズクガイなどの汚濁指標種はほとんどみられない。